



子どもたちの明日

Children, Our Future



CYR ニュース No.32
 News 1993年12月

目次 Contents

アジアの現場から CYK & DEK/CYR

カンボジアでは いま————— 2
 from Cambodia

チェンメンに新しい保育所オープン…………… 3

プノンペン発しくる通信…………… 4

タイでは————— 5
 from Thailand

樽沢レポート——在アランヤプラテート
 新スタッフが語る…………… 5

根つき発展するDEKの活動…………… 6

もうひとつのかけ橋————— 8

北海道とカンボジア
 Cambodia & Hokkaido, Japan

子どもたちの明日を築く————— 9

郵政省ボランティア貯金の助成
 Voluntary Postal Savings
 for International Aid

タイへのスタディー・ツアー
 から学んだもの————— 10

CYR Volunteers'
 Study Tour to Thailand
 ボランティア・グループてくてく主催

受入れ側のタイの村から…………… 11
 from the Villagers in Thailand



from **カンボジア** **アジアの現場から CYK**
ではいま **Cambodia**

CYK の3番目の保育所がオープン
CYK Opened its Third Child - Care - Center

1992年1月にCYKがバンキアン村プレイタトゥで保育活動を始めてから、満2年が過ぎようとしています。今では、サムロンクロム村も含めて130人あまりの子どもたちが元気に通っています。今年93年秋には、この保育園から初めて37名の子どもたちが村の小学校へ上がりました。

サムロンクロム村の11の集落を対象にプノンペン市保健局とダンカオ地区病院と共同で行なってきた巡回診療と保健衛生指導、予防接種と発育測定などの活動も広がってきており、現在必要とされる人の約80パーセントをカバーしています。中でも多いのは、婦人科診療です。CYKが中心となって養成してきた家庭相談員も13名になり、うち保育専門者9名、保健活動員4名となりました。

またプレイタトゥでは、「母親と少女を対象にした2つの縫い物教室」も開いています。そして、織物の技術訓練も来年一月の開始に向けて準備が進んでいます。ところが保育所裏庭の建設予定地が季節はずれの大雨で水浸しになり、建設開始が遅れています。この農閑期を逃すとプロジェクトは遅れるばかりなので、村長宅の敷地内に仮の建物を建てることになりました。

CYK opened its 1st child-care-center at Prey Ta Touch, Samrong Khrom village, in Jan., '92. About 130 children attend our nursery schools now, and another 37 were admitted to prim. schools this autumn.

Programs like mobile clinics and community vaccinations now meet 80% of the demand in Samrong Khrom village 13 home counselors have been trained so far.

Sewing classes are also provided in Prey Ta Touch, and weaving classes are expected to start early next year.

サムロンクロム村チェンメンに新しい保育所オープン

今年7月、CYKが活動しているサムロンクロム村トロップエンタヌン集落の隣にあるチェンメンの人たちから、保育所を始めてほしいとの要請が出ていました。これまでのCYKの活動が信頼と評価を得た結果といえます。母親たちと数回にわたって話し合いを持ちました。チェンメンの人々数人が保育活動の責任者となり、母親たちは子どもたちの給食のお金を小額でも喜んで支払うこと、お料理をすること、そして保育所を半日オープンすることなどで相談がまとまりました。

チェンメン地区は、全家族数79、総人口372、男性182人、女性190人。3～6歳の子どもは38人（'93年9月現

在）で全員が保育を希望していました。全家族が農業（主に稲作）を営んでいますが、ほとんどの家庭が、プノンペン市街での労働、小商い、モーターバイク・タクシーなどの副業を持っています。集落としてのまとまりが強く、保育所活動に公有地の使用、整備のための労働や給食用のお米の提供、調理補助の協力など大変積極的です。

そしてさる11月15日、7人の僧侶と大勢の人々が集まりオープニング・セレモニーが行なわれました。チェンメンは、サムロンクロム村の中では比較的裕福な地域で、住民の意識も高く、“住民が自主的に運営する”保育所になると期待が持てます。

A New Child-Care-Center in Chaeng Maeng, Samrong Khrom village.

CYK opened a child-care-center in Chaeng Maeng, Samrong Khrom village, at the request of villagers.

The community has a population of 372, with 38 children aged 3 to 6 (as of Sep., '93) whose parents all wanted a day care program.

The community's 79 families all engage in agriculture, and most of them have a side business in Phnom Penh.

The opening ceremony was held on Nov. 15.



p2 : ツメを切る習慣も大切。
バンキアン村プレイ
タウ保育所で
(左端は野村美知子)
photo : 嶋沢峰子
: Mineko Shimazawa

p3 : さっそく遊ぶ子どもたち
サムロンクロム村
チェンメン保育所で
photo : CYR スタッフ

日本からの支援で

プノンペン特別市サムロンクロム村に テッカポンヨ小学校建設はじまる

名古屋駅地区振興会（全32社）の協力を得て、幼い難民を考える会によるカンボジア教育環境整備プロジェクトの小学校建設が始まりました。今月12月15日、同振興会事務局より柴田哲男氏（名鉄百貨店）をおむかえして着工式が無事執り行われました。建設の進行状況については、次号のニュースでお知らせします。

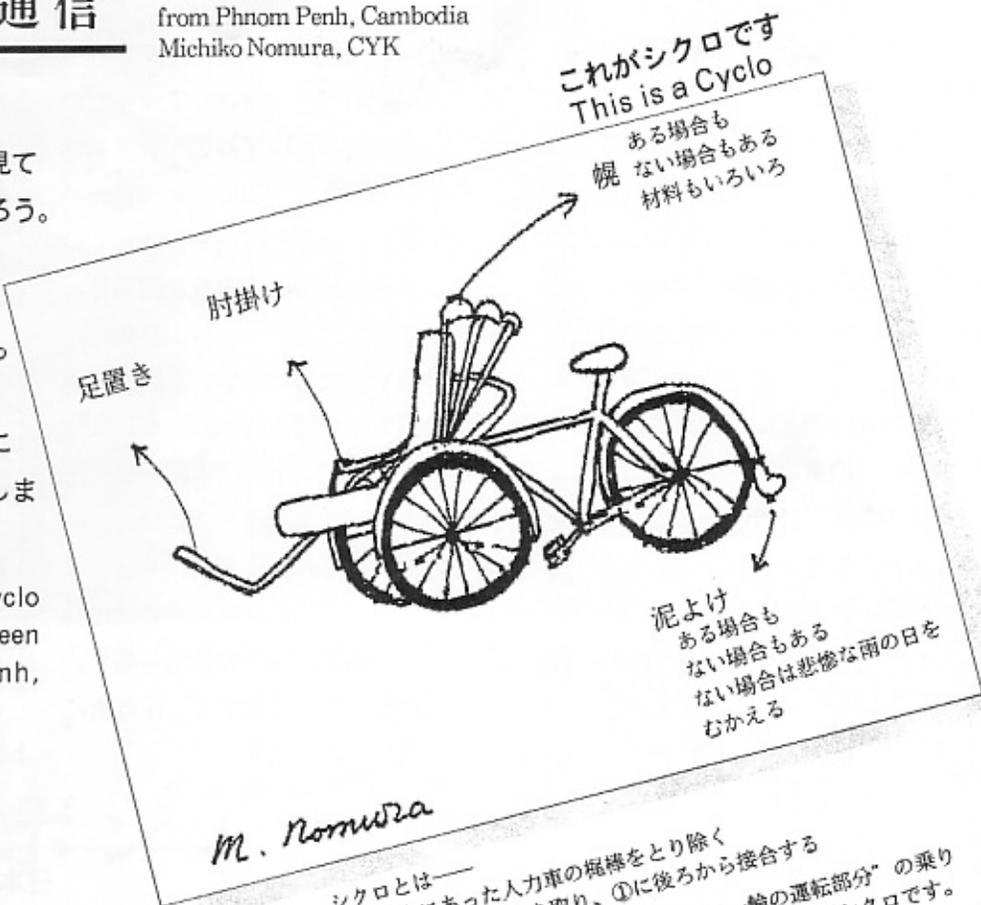
Aid was provided for building a primary school in Samrong Khrom village

The construction of the primary school started, funded partially by a group of 32 companies in the Nagoya area in support of CYR's educational program. A ceremony to commemorate the construction's of the school was held Dec.15, attended by Tetsuo Shibata, its bureau member who works for Meitetsu Department Store. Details will be reported in the next issue.

CYK (Caring For Young Khmer)
is CYR's Cambodia project team

同じアジアとはいえ、日本から見てカンボジアはやはり“遠い”だろう。ここプノンペンに暮らしていて、見ること、聞くこと、感じることをそのまま知らせる機会があってもよいのでは——。そこで、純粹に私見に基づき、不定期に『しくる通信』を綴ることにしました。

I have decided to publish "Cyclo News" to report what I have seen and heard in Phnom Penh, Cambodia.



これがシクロです
This is a Cyclo

ある場合も
ない場合もある
材料もいろいろ

泥よけ
ある場合も
ない場合もある
ない場合は悲惨な雨の日を
わかえる

M. Nomura

シクロとは——
① 日本にあった人力車の握棒をとり除く
② 自転車の後半分を取り、①に後ろから接合する
すると“前に二輪の腰掛け部分+後ろに一輪の運転部分”の乗り物ができあがる。カンボジア版三輪人力車。これがシクロです。
語源はフランス語か？
プノンペンでは庶民の足として、街を走り回っています。

1993年11月11日

今日は1US\$ = 2,250リエル。昨日は2,300。日曜には2,470でした。どうして急にリエルが持ち直したのか、よくわからない。以前、プノンペンのドル=リエル・レートはプサーチャにいる3人の華僑が毎朝話し合って決めるのだ、と聞いたことがある。うそかほんとうかはわからない。市場で買い物をしていてドルで払ったら、「これはだめだよ」とつきかえされた。セロテープで破れた部分をつないでいるから、とのこと。銀行から受け取ったお札なのに!!

プサータマイ（市内で一番大きな市場）に久しぶりに買い物に行った。また一段と品物が増えたようだ。今まで絶対に見かけなかったものが売られているのを見つけた。

“子犬”。誰かがペットとして飼うのかしらん？ 食ベルトハ思ワナイケド・・・。

1993年11月13日

1\$ = 2,200リエル。銃器類の登録制がやっと始まったばかりです。「プノンペン・ポスト」の最新号で、銃器の値段相場がレポートされていましたが、100ドル以下で手に入るものもあります。

Nov.11 '93

The riel exchange rate against the US\$ recovered in the last few days for no apparent reason. The day's finish was 2,250 to \$1.

I went shopping at the city's largest market. Goods are now more abundant.

Nov.13 '93

A system requiring people to register their small arms finally started. The Phnom Penh Post reports some guns cost just less than \$100.

from Thailand

タイでは

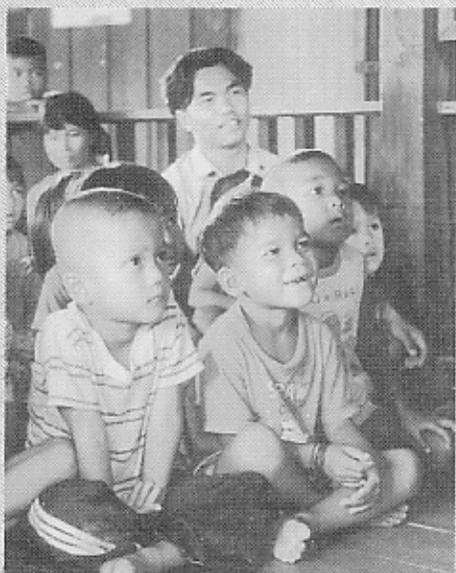


photo:Poot Butrat

上：お母さんを手伝って……防虫剤作り
東京勤務の時は、お料理もしなかったのに
バライ村で

下：楽しみにしていた巡回人形劇の日
タブリック村で

Waiting for this day. A little but happy
memory, everyone needs it in their
childhood

難民キャンプと呼ばれてきたアランヤプラテート。カンボジア難民が本国へ帰還し、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）、海外のNGOが去り、カンボジア国内から休暇でやって来ていたUNTACの兵士や車も姿を消した。ここ1、2年の間にできた目新しいホテルや英語メニューのある西洋風レストランにアイスクリーム店。ついに登場したスーパーマーケットやカラオケスナック。店をたたんだコピー屋。住む人の居なくなったアランの住民には不釣り合いな大きな貸家の数々。この町はこれからどう変わって行くのだろうか。そして周辺の村の暮らしぶり。

かつて多くの援助がすぎ込まれたタイ・カンボジア国境の被災村に残り、活動を続けているCYRとタイのグループDEKがいる。保育と農村開発をめざす仲間と、アランヤプラテートで研修をした新しいスタッフ樽沢美幸が語る。

休みを利用してカンボジアの国境にある市場へ行った。お土産をさがして車を降りた私たちに、待ち構えていたかのように子供たちがお金をせがんで寄ってきた。その中に、少女に抱かえられた、瘦せた丸裸の赤ん坊がいた。ハッとした。照りつける太陽のもと、その赤ん坊は、死んだようにぐったりしていたからだ。視線を宙に泳がずしか術のなかった私は、割り切れないものを抱かえて帰ってきた。少女にお金を渡せばよかったのか？ カンボジア難民に対し、自分はどれほどの認識があるのか？ 難民キャンプを知らない私は、時折その事に負い目を

感じる。NGOのスタッフとして、同時代を生きた1人の人間として。

2カ月は、あっという間だった。現在の仕事内容は濃く、スタッフも経験豊富で優秀との印象をもった。村人との一方通行でない、相互の意志を確認しながらの協力関係にも共感を覚えた。

長期展望に立って、村人の自立を目的に活動しなければならない今、プロジェクトの根底にある、人と人とのつながりを、多くの人々に語っていききたい。しかし、その為に、自分は何をするのか、どうする事が望ましいのか……。未だ私の模索状態は続いている。

樽沢美幸（たるさわ・みゆき）

'93年6月より在タイ・アランヤプラテートCYRスタッフ

Aranyaprathet was once called a town of refugee camps, but neither Cambodian refugees nor staff members of UNHCR, UNTAC, and NGO's can be seen any more. Left with shops and houses ill-matched with their needs, what changes will be brought about for local people?

Miyuki Tarusawa, a new staff member of the CYR Thai office who finished 2-months' training at Aranyaprathet, reports on projects by CYR and DEK under way at a Thai village near the border.

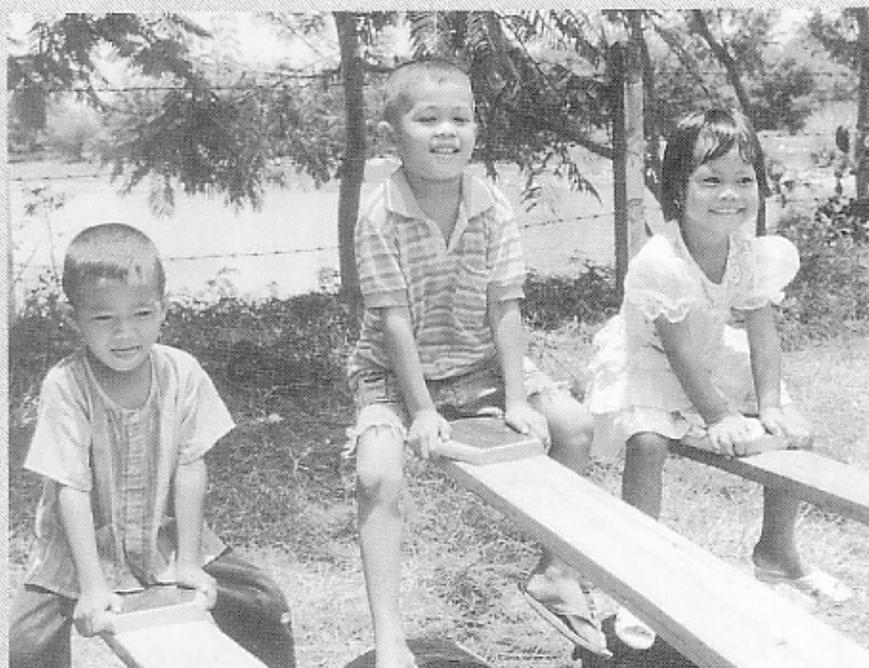
I went to a market near the Cambodia border on my day off, and met a girl with a baby. When the girl asked me for money, I could not decide what to do, and the experience made me aware of my poor knowledge of Cambodia refugees.

The training with experienced staff members was substantial, and I respected their two-way communication with the villagers.

I want to let others know of these mutual relations aimed at achieving villagers' independence. At the same time, I am thinking about what I should do to attain this goal.

by Miyuki Tarusawa / CYR staff stationed in Aranyaprathet, Thailand from June '93.

村の保育園では



保育

手作り遊具 (タブリック、ノンブルー)

村の保育園運営委員会や子どもの父親たちが集まって器用に、外遊具を作った。「おもしろい」の歓声に作り手もついつい笑顔があふれる。

Child-Care Activities Handmade Playground Equipment

(Thapprik, Nongprue)

Playground equipment was made by children's fathers and local officials.

できあがった外遊具で
さっそく遊ぶ子どもたち
タブリック村保育園で

無農薬の野菜畑

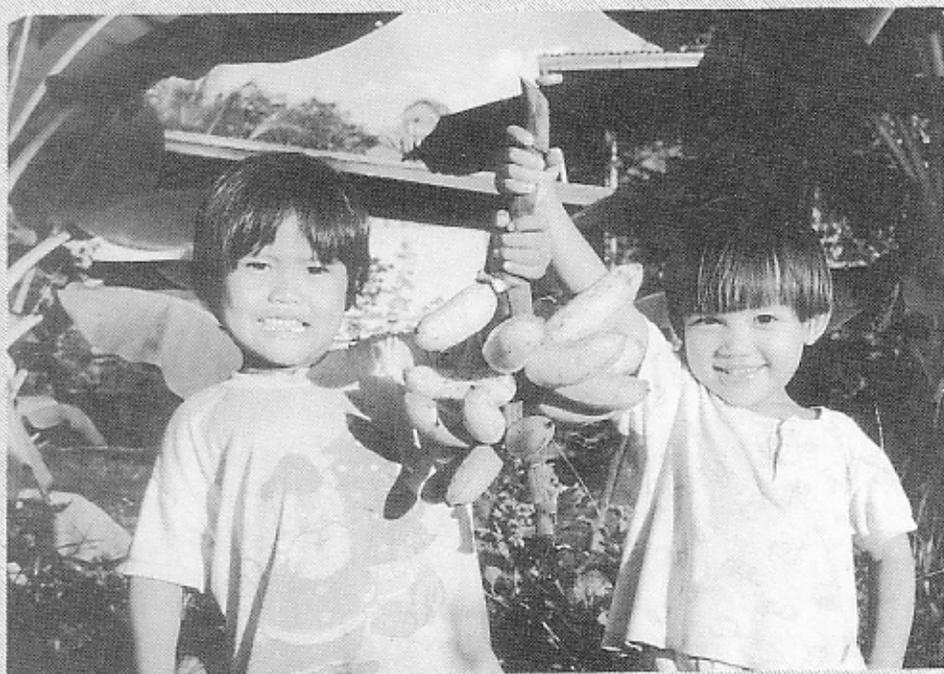
収穫状況がよく、給食に手作りおやつにと青菜、バナナが毎日子どもたちの食卓に登場している。

Vegetable Growing by Organic Method

Greens and bananas were served every day due to a good harvest.

子どもたちの給食のために
保育所の裏庭にある菜園で
手にする収穫、バナナ

パライ村保育園で



給食 (パライ、ノンブルー、タブリック)

ノンブルー村では8月から給食を始めた。食事が充実してきたばかりでなく、給食を作る母親たちや保育者が「共に考え実行する」ことの意味を理解するようになってきた。

Lunch (Parai, Nongprue, Tapprik)

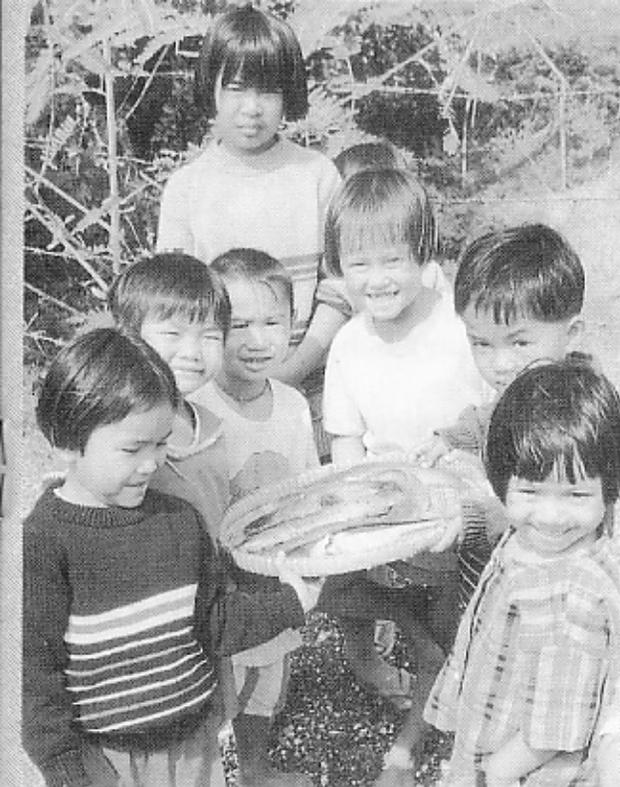
A school lunch program was started in Aug. at Nongprue village.

養殖池

9月中旬、ブラーデック（なまずの一種）の稚魚約2,000尾を放流。11月中旬成魚となり、いよいよ子どもたちの給食に充てられ、週1回は保育資金集めを目的に売られる。池の管理はすべて保育園運営委員会と村人の協力で行われている。

Fish-breeding Pond

Catfish have grown large enough to be served for lunch. They are also sold for fundraising.



▲▶育てた魚がこんなになりました。お給食のおかずです
Children and their fish

photo:Poot Butrat



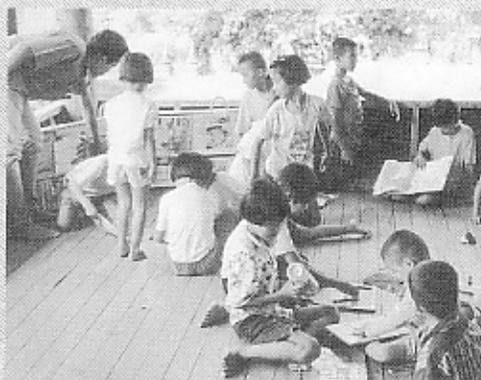
村人の見学研修

農業研修（パライ村）

無農薬農業に興味感心のある村人5名が、チャチュングサウ県のウィブーン氏の「森林農法」農園を訪問し、宿泊研修を行った。化学肥料と農薬の多量使用から生じる慢性的な問題に、危機感を持つ農民が少しずつ増えてきている。が、実際は、不安と知識不足からこれまでの化学品を使ったコストのかかる農業を変えられないまま、経済的苦境に陥り、その結果農業離れをする場合も多くある。そんな農民に新しい農業を紹介し学ぶ機会を提供しながら共に、問題解決の方法を考えていきたい。

Agricultural Study Program for Villagers (Parai)

Five villagers visited a farm in Chachungsau Prov. to learn organic farming so they can get rid of the conventional method which largely depends on agricultural chemicals.



移動図書館
a mobile library program
photo:Poot Butrat

もうすぐ

児童図書状況調査開始

「本が読みたい、でも本がない」といった保育物や小学校の先生たちの大きな声。将来の移動図書館プログラムの可能性を探る目的でアランヤプラテート郡にある6カ所の小学校と14カ所の保育園の児童図書に関する実態調査を行う。

Research for Children's Books

Book research will be conducted at primary and nursery schools in Aranyaprathet to study the feasibility of a mobile library program.

活動許可申請中

現在、CYR/DEKが活動中の当該県であるプラチンプリ県地域開発局に対して、来年以降3年間の活動許可を申請し承認された。

Application was Accepted

DEK/CYR was allowed to continue activities in Prachinpurī Prov. for 3 more years.

おのっぽろ

小野幌小学校（北海道札幌）とバンキアン小学校（カンボジア）の交流

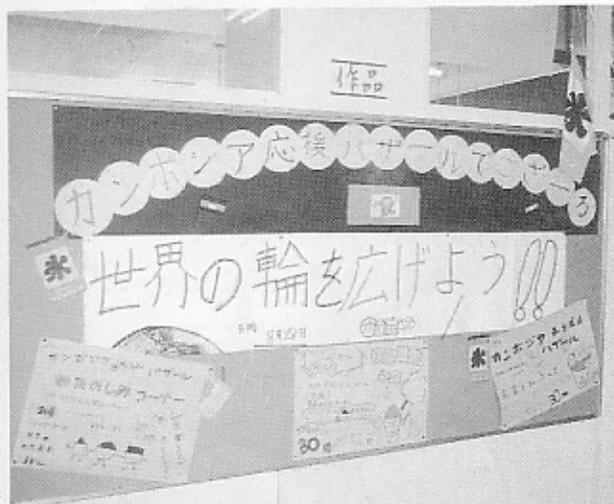
Onopporo Primary School (Sapporo, Hokkaido) and Bankeang Primary School (Cambodia)

6月1日、「若い難民を考える会（CYR）」の東京事務局に北海道札幌市から電話がかかってきました。「何かのお役にたちたい。」それは、CYRが北海道から受けた初めての電話で、小野幌小学校のPTA役員で生徒の母親、中山美佐子さんからでした。

その結果、他のPTA役員、先生方、そして生徒たちの関心をうながせるような何かということで、7月に最初の

パネル展示をしてみることにになりました。そのようなきっかけと中山さんの熱意とで、8月末に4日間、小学校でのパネル展示と「カンボジアの応援バザールでござーる」というバザーになりました。その収益金65,913円はCYRへ寄付され、CYKの活動地域のひとつ、プノンペン郊外のバンキアン村のために使われることになりました。

CYKは村の人たちと話し合いを持ち、バンキアン小学校には机もいすもない教室がまだまだあるので、机といすを作ることにになりました。さっそくCYKのプントゥアン（カオイダン難民キャンプ「希望の家」以来のカンボジア人スタッフ）が材木を仕入れ、村の大工さん手作り机といす10台が11月になって届けられました。



小野幌小学校のバザーで

Cambodia Fair at Onopporo Primary School, Sapporo Hokkaido



「ありがとう」バンキアン小学校で

With letter panels from Hokkaido at Bankeang Primary School, Cambodia

小野幌小学校のバザーが終り、寄付金とともに生徒たちの感想文がCYRに届きました

「バザーはとても楽しかった。“こんなに楽しいことをして、それがカンボジアの人たちの助けになる” ナンテ、誰の発案なんだろう！」

やがてカンボジアからもお礼の手紙が届きました。札幌からかわいの手紙が貼られたきれいなパネルがカンボジアへ送られ（写真）、とカンボジアと日本を結ぶ小学生同志の交流が芽生えました。

「カンボジアからのお手紙を先生方に読んでいただき、どの子もカンボジアがずっと身近に感じられてきているようです。私たちのわずかな寄付金に対してこれ程きめ細かな活動をしていただき、本当にありがとうございます。私個人も今回の行事を通し、実に沢

山の事を勉強することができました。役員一同、やりがいのある仕事と実感しております。今後も何とかして交流が続けていかれるよう、思案しておりますが、とにかく卒業まであと半年、学校やPTAへの働きかけを続けるつもりです。」

（中山美佐子さんのお便りから抜粋）

子どもたちの明日を築く

郵政省ボランティア貯金の助成

幼い難民を考える会（CYR）は今年も郵政省ボランティア貯金からの助成金1千495万円を受けることになりました。助成の対象はタイとカンボジアの2カ国で着々と成果を上げている、恵まれない地域の子どもの健全な成長とその生活環境をととのえる事業です。1991年から助成の対象となっていたカンボジアでのプロジェクトに加えて、1993年度はタイの被災村（タイ・カンボジア国境）でのプロジェクトについても助成を受けています。

カンボジア

- プノンベン特別市サムロンクロム村
- カンダール県ブレイトウ村

対象者数

幼児 130名
 保育者 13名
 母親 他 約4,000名

2地域で行なっているのは保育所の運営（3カ所）、子どもを中心とした家族の生活環境の向上をめざした活動です。活動の内容は家庭相談員の養成、住民の巡回医療（地域病院と提携）、予防接種、保健衛生指導があります。住民の自立を軸とする活動で、助成金は保育所での給食費、教材の素材、医薬品などの購入にあてられています。

タイ

- プラチンブリ県アランヤプラテート郡パライ村ほか14村

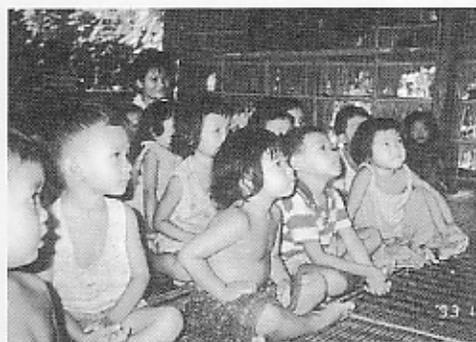
対象者数

幼児 700名
 保育者 33名
 母親 他 約3,700名

カンボジアとの国境の村で4カ所の保育所を運営する他、保育者の養成、養魚および菜園の運営、移動図書館も軌道にのりました。積極的な村の人たちの参加で、自然農法による野菜づくりや不足がちな蛋白源となる淡水魚が、子どもたちの給食の中味を少しずつ豊かにしています。

カンボジア、タイともに村人の自活力は限られており、カンボジアでは保育所修復のため2週間保育を休んだところ、子どもたちの体重が減っていたことがわかりました。

郵政省ボランティア貯金を支える全国の支援者のみなさまのご協力にこたえられるよう、CYRの現地スタッフは情熱を燃やし、子どもたちの明日を築くため村人たちと力をあわせています。



カンボジアのCYK保育所で
 At a CYK Child-Care-Center
 in Cambodia

Your Goodwill Will Help Children

Voluntary Postal Savings for International Aid provided 14,954,000 yen for CYR in fiscal '93.

CYR has received donations from this in Cambodia. The total sum so far has reached 22,630,000yen, including that of contribution for the program in Thailand which started in fiscal '93.

In Cambodia, CYR runs 3 child-care-centers and gives health guidance. With the funds we receive, we buy school lunch ingredients, teaching materials, and medical supplies. In Thailand, we run 4 child-care-centers near the Cambodia border. We also raise fish and grow vegetables by organic farming, and use both for school lunches to improve children's health.

We express gratitude for this support on behalf of the children. We will continue to make efforts with the villagers, so children in the 2 countries will become independent.

CYRへの助成実績

年度	金額	国名
1991	¥894,000	カンボジア Cambodia
1992	¥6,782,500	"
1993	¥7,534,000	"
"	¥7,420,000	タイ Thailand
総額 TOTAL	¥22,630,000	

郵政省国際ボランティア貯金とは

預金者は貯金の利子の20%を寄付します。郵政省は民間海外援助団体（NGO）を通じて、その寄付を食糧・医療・教育などさまざまな分野で開発途上国の福祉向上に役立てています。

What is Voluntary Postal Savings for International Aid?

Under the program sponsored by the Ministry of Posts and Telecommunications, depositors contribute 20% of their interest to NGO's, which spend the contributions improving the welfare of people in developing countries.



子どもたちはいつも遊ぶことの天才
村々、保育所や小学校に今も必ずある防空壕の前で
タブリック村保育所で
Children are geniuses at playing anywhere
in front of a shelter at DEK/CYR Tapprik Child-Care-Center

タイへの スタディー・ ツアーから 学んだもの



ノンブルー村保育所を見学
Visiting DEK/CYR Nongprue
Child-Care-Center

CYR支援ボランティア・グループ
てくてく主催

てくてくの活動：毎週木曜日の夜と土曜日の午後

The staff members of DEK cooperate with villagers so children won't be separated from the society. It takes time to promote independence among villagers, but CYR's effort to educate people bore fruit everywhere.

by Junko Mori (house wife)

I got acquainted with many villagers and appreciated their kind hospitality. I will let others know what I have experienced during the study tour.

by Miyuki Sasaki

(child-care-specialist)

Thailand today may be like what Japan used to be a short while ago. I hope Thai people will not repeat our mistakes in changing their lifestyles in the future, and will not lose what is important to them, however difficult it may be.

by Hitomi Nameshida
(psychoanalyst)

3つの保育園を訪ねてみて、違いはあっても、保育園や子どもを社会から切り取った存在で考えないで、子どもを取りまく環境も考え、村の人と交流しながら協力活動をしていくというDEKの一貫した姿勢を見ることができた。自分たちの保育園を、村を良くしていこうという自立を促し、協力していくのは、待ちの時間が長く、根気のいることだと思う。それでも、「モノではなく人を育てる」というCYRの活動の成果はいたる所に感じられた。

森 潤子 (主婦)

保育園で炎天下の中、一緒に畑仕事をし、汗を流したこと。タイ語でいろいろ話しかけてくれたこと。そして民泊先に20人以上も夜遅くまで集まってくれ、知り合えたこと。あれこれとおいしい料理を作ってくれたこと。そして何よりも私たちが心優しく受け入れてくれたことに感謝します。未来ある子どもたちのために私は何ができるのか？スタディー・ツアーで感じたことすべてを皆に伝えること、行動することが、私にできる唯一のことです。佐々木みゆき (保母)

日本も少し前は、いろんな面でタイのようだったのだと思う。タイも、これから生活が急激に変わっていくと思う。が、日本の轍を踏まないでほしい。何が一番自分たちにとって幸せなことなのか、大事なことなのか、考えながら歩いて行ってほしい。とは言うものの、経済の問題は、国の政策に大きく左右される問題であるから、本当に難しい問題であると思う。

にわとりと牛の声で目が覚める。

滑志田ひとみ (心理カウンセラー)

CYR Volunteers' Study Tour to Thailand

タイのパライ村から
ス タディー・ツアーを前にしてパライ村の人たちは日本人が村泊する事に関してさまざまな心配をしたようです。

「便利な日本に比べて村の生活は快適ではないだろう」「国境の村に泊まるのは怖くないだろうか」「辛いタイ料理は食べられるだろうか」「トイレや水浴びは平気かしら」「言葉が通じなくても大丈夫だろうか」などなど。

少し辛さを控えたタイ料理は「アロイ、アロイ（タイ語で美味しいの意）」とたくさん食べてもらえ、トイレや水浴びも心配した程ではありませんでした。保育園や家では、子どもたちとたくさん遊んでいただいていたありがとうございました。「日本人はみな遊び上手」と評判です。みなさん一人一人がとても素直で、村の生活に溶け込もうとしている姿勢に感心しました。言葉の障害を越えて気持ちがわかり意思が通じたのは私たちにとっても驚きでしたし、大きな喜びでした。

もう一度、また来てください。1、2日ではなくもっと長く。農作業の少ない乾季だともっとお世話ができると思います。ほんのちょっとタイ語が話せるようになったらきっと楽しいでしょう。ぜひ、またお会いしましょう。

Letters from Thai Villagers

The villagers of Parai had various concerns before accepting Japanese participants in the study tour; however, later, they expressed the following feelings:

“Contrary to initial concerns, you had no trouble concerning village life; you enjoyed spicy Thai dishes and played with the children. We were impressed with your effort to adapt yourselves and to communicate beyond the language barrier.

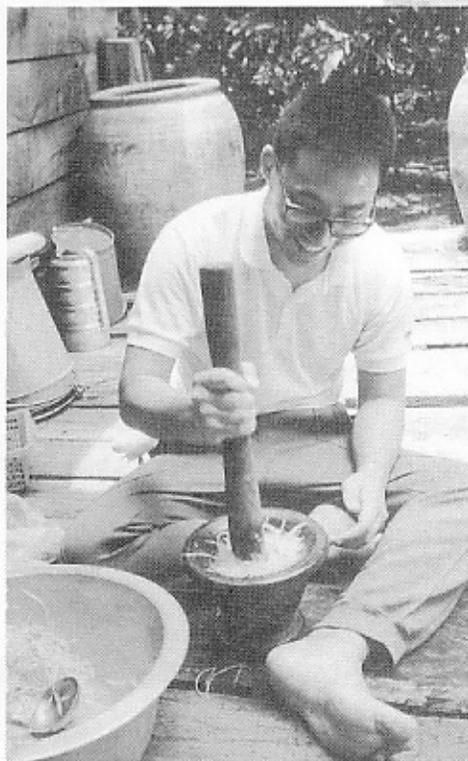
We hope you will stay here longer next time in the dry season, if possible. We look forward to seeing you again.



子どもたちのために外遊具を作る
村の人と一緒に力を合わせて
Building a playing ladder
for children with the
villagers



村で田植えも手伝いました
Helping rice-planting in
the village



DEK/CYR 保育所の子どもの家泊まる
お母さんを手伝って、タイ料理に挑戦
Staying at a child's home
in Parai village
Trying Thai cooking,
helping the mother



保育所に通っている子どもの家で
家族全員と食卓を囲む
A happy meal time with
the family

CYRは国際社会のかけ橋です

「幼い難民を考える会」は14年前、難民になったカンボジアの子どもたちがキャンプでけんめいに生きようとする姿に触発され、組織されました。緊急援助のさなか、子どもたちにとって安心できる場所、安全な場所をカンボジアの人たちとつくりました。わたしたちは助けるという意識が相手の自立を侵したり、相手を管理する態勢に陥らないような工夫も学びました。「難民の子ども」ではなく、人格をもった「幼い難民」としての保育を受けた子どもたちも成人し、カンボジアも含めてさまざまな国で、それぞれの人生を歩んでいます。新しい時代を動かしはじめたその数は7,833人（1980年6～1992年11月）。

会の活動はいま、難民救援の次の

段階で、小規模の地域開発の成果をみるまでになりました。タイの国境の村とカンボジアのふたつの村で、「考える会」がめざすのは、地域の人びとの自助努力を支えることです。これらはまだ試みとしては小さなものに過ぎません。しかし日本とタイ、そしてカンボジアの3つの国の交流は、日本に求められている国際社会での役割について、たくさんの示唆を与えてくれます。

わたしたちは難民の問題に学び、これを出発点として、アジアの恵まれない地域の子子どもたちが、安全に暮らせる場所づくりを続けています。それは人びとが再び難民にならない、安定した社会をつくる道につながるからです。あなたもCYRに入会しませんか。

CYR, a Bridge to the Global Community

"Caring for Young Refugees" was established 14 years ago to assist the Cambodian refugee children in a refugee camp. The children were then the source of our aspirations to be better members of the world community. We learned to care and respect each other as an integral part of the society.

The young refugees who attended CYR's Child - Care - Centers counted 7,833 since 1980 until the closure of the camp in 1992.

Although in a small scale, CYR now operates in two countries; Thailand and Cambodia continuing to focus on a developmental work where spirit of self-help is essential, and where children and women are much in need of support for their well-being, CYR's aim is to encourage people to live with integrity and in harmony.

切り取り線

申込書

あなたもCYRの会員になりませんか

申込日 年 月 日

お名前 男・女

生年月日 年 月 日 (歳)

ご住所 〒

☎
勤務先または学校名

■会費は年6,000円です。お支払いの方法はつぎの通りです。

①年払い6,000円(年 月～ 年 月分)

②月払い 500円(年 月分)

(○印で囲み、ご記入ください)

■活動支援のためのご寄付もお受けいたします。その際は「寄付」と明記の上、以下の方法でお振り込みください。

① 郵便振替 口座番号 東京 1-36227

② 銀行振込 第一勧業銀行 広尾支店
普通 057-1280817

切り取って 法金とは別に 郵送下さい

事務局からのお知らせ

支援チャリティー・コンサート

10月24日 川崎聖パウロ教会でパイプオルガンの演奏。

11月1日 聖心女子大学で「ミサと小コンサート」。

11月3日 「CYRボランティアまつり」開催。収益金630,016円。

ご協力ありがとうございました。

10月、高田美江子はタイの任期を終え東京勤務。11月より樽沢美幸がタイ赴任。石塚和美が退職。12月より新しく吉岡詩乃が事務局勤務。よろしくお願いいたします。

CYR ニュース No.32

制作・発行 ■ Published by

幼い難民を考える会

CARING FOR YOUNG REFUGEES

〒160 東京都新宿区南元町 6-2

☎03-3353-9947 Fax 03-3353-9739

Head Office: 6-2, Minamimotomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160, Japan

Bangkok: V.V.V. Apt. 23, 135 Soi Phayanak, Phayathai, Bangkok, Thailand

☎ 215-0658

Phnom Penh: No.32 V.430 Sangkat Psa Damtkov Chomkar Mon, Phnom Penh, Cambodia

☎ 18-810261

発行人 ■ Publisher

深水 正勝 Masakatsu Fukamizu

編集責任者 ■ Editorial Director

笹尾 勝 Masaru Sasao

編集協力 ■ Editorial Contributor

長谷川容子 Yoko Hasegawa

渡辺 典子 Noriko Watanabe

翻訳 ■ Translation

小坂 恵理 Eri Kosaka

ヘザー・サザランド Heather Sutherland

コンピュータデザイン ■ Computer Design

亀田 万里 Mari Kameda

印刷 ■ Printed in Japan

小田切印刷 by Odagiri Printing Co., Ltd.